

高千穂学園創立 120 周年記念論文集Ⅱの 発刊に際して

高千穂大学 学長
寺 内 一
2023 年 11 月 26 日

高千穂学園は 1903 年（明治 36 年）4 月に、川田鉄彌先生が高千穂尋常高等小学校を新宿大久保の地に設立されたことからその歴史が始まり、ついにこの 2023 年（令和 5 年）に、学園創立 120 周年を迎えることになりました。本号は、前号の論文集Ⅰに続く 120 周年記念号の第二弾となります。

高千穂学会は、その前身を高千穂商科大学商学会とし、1953 年（昭和 28 年）4 月 15 日に記念すべき『高千穂論叢』第 1 集が発刊されました。その商学会の初代会長は川田鉄彌先生ご本人でした。その時に作成された『高千穂商科大学商学会会則』の第 2 条に、「本会は、商学、商学関係科学の研究及び其の奨励、普及並に会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあります。そして、この第 2 条の目的を達成するために、『高千穂論叢』の刊行だけでなく、研究会や講演会の資料展覧会の開催、さらには他の学会及び諸団体との連絡等の諸事業を行うことが謳われておりました。なお、『高千穂論叢』はその発行が確認されている中で、最も早いものである 1953 年度（昭和 28 年度）の『高千穂論叢』を 1 巻 1 号、次に発行が明らかな 1962 年度（昭和 37 年度）を 2 巻 1 号、さらに、1968 年度（昭和 43 年度）を 3 巻 1 号とし、それ以降は毎年度の発行がなされていて、それ以降は順送りに行っていくことが、1989 年度（平成元年度）の『高千穂論叢』のお知らせに記載されております。

その記念すべき『高千穂論叢』1 巻 1 号（当時は第 1 集（1953 年（昭和 28 年））に掲載されている論文のタイトルを紹介します（敬称略）。瓜生昌「フーリエの理想社会」、本間幸作「商及商業の根底に横たはるもの」、兼子春三「会

社の財政整理と評価問題」、「経済確立模型の総論的叙述」、山内惣一「国際経済に於ける或る問題点」と5編です。ちょうど今から70年前の論文すべてを拝読いたしましたが、歴史を物語る黄色がかった紙に本学の諸先生方の思いを感じることができ、本学の培ってきた歴史そのものだということを再認識いたしました。

この高千穂学園創立120周年はまさに、『高千穂論叢』70周年でもあります。高千穂学園とともに歩み続けてきた『高千穂論叢』が、これまで以上に、川田先生が掲げられた人間教育の一助となることを心より願い、お祝いの言葉いたします。